

Future

プロジェクト ~水循環・保全プロジェクト~

5/9（月）より、新しいプロジェクトである「水循環・保全プロジェクト」をスタートさせました。これまでの授業では、私から発表されるテーマについてメモを取り、クラスで話し合いながら課題の中心を捉えたり、なぜ今回のプロジェクトに取り組むかについて話し合ったりしました。子どもたちが非常に驚いていたのが、水道水から直接水を飲める国は世界中にわずか8カ国ほどしかないことです（下記世界地図）。その中にはアメリカや中国など、お金を持っている国は含まれておらず、なぜ日本は水道の水が飲めるのか、色々な視点から話し合いました。世界中には同じように水はあるはずなのに、自分たちの住む日本は苦勞することなく飲むことができることができる環境に対し感謝しながらも、「誰かが手を加えて加工してくれているその方法」と、「それを守っていくために自分たちでもできることはないのか」かをプロジェクトの目的としながら、水がどのようにして手元に届くのか、また水の安心と安全がどのように守られているのかについて調べていきます。5/13（金）の授業では、プロジェクトの内容をより理解しやすくするため、各教科で学習する内容とのつながりを整理してまとめ、いかにプロジェクトが教科横断的であるかを理解しました。社会・理科・国語・情報などがつながっている壮大なプロジェクトを、これから校外学習にも出かけながら進めてまいります。

（学年主任 荒谷）

宿泊避難体験 ~SOLAN初の宿泊行事~

5/13（金）から5/14（土）の朝にかけて宿泊避難体験を行いました。13日（金）は通常通り授業を行い、15:40から改めてこの宿泊の目的を説明した後、学年で遊んだり、三宅先生と鈴木先生が急遽お越しになり、宿泊学習に臨む子どもたちを盛り上げてくださってから、ラーニングコモンズで宿泊をしました。避難体験の主な方法としては、夕食はアルファ米の非常食（ドライカレー）、長尾理事長指導によりシーチキン缶ろうそく体験、そして各自持参した寝袋での宿泊をしました。クラスの半分以上の児童がマッチで火をつけたことない中での体験だったため、この体験は非常に大きなものであると感じました。SOLANにとって初の宿泊体験ということで、様々なことを検討しながらも、子どもたちの様子を見ると今年の思い出の1つになるほど楽しんでいました。協力いただいた先生方や職員の皆様に感謝し、避難体験の難しさを少し感じつつ、さらに学年の団結力を高められた宿泊体験となりました。

児童のふりかえり（一部抜粋）

・私たちは宿泊をしました。ソランで初めての宿泊だったので、最初はとても緊張していました。でも学校の子たちが一緒なので少し緊張もほぐれました。マッチを使う時には、初めてのマッチだったので、とても、緊張していました。「火傷をしないか」「もし何かあったらどうしよう？」と思いました。でもいろんな先生が手伝ってくれたので、1本だけできました。でも、もし本当に家に帰れなかったら、こういう生活をしないといけないだなと思いました。これからは、マッチの練習をしてもっとマッチを上手く使いたいです。

・初めて学校で宿泊をしてみて、できた事は、初めてマッチを使って見てマッチって怖くないんだなと、思いました。夜・朝ご飯は非常食で、食べて見たら自分の思っていた非常食とは違ったので、非常食ってこんなに美味しいんだなと思いました。シーチキンにマッチで、火を自分でつけて、嬉しかったです。夜寝る時は、ぐっすり眠れたので、気持ち良かったです。

（学年主任 荒谷）

火災・地震避難訓練

5月2日（月）の2時間目に理科室より出火したという想定で火災の避難訓練をおこないました。事前指導では「おはしも」という言葉が子どもたちから出ました。「おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない。」を徹底することができました。

火災発生放送が入った瞬間、子どもたちは静かに素早くならんで運動場に避難することができました。「さすが4年生！」という声を後で聞くことができました。

また5月12日（木）には地震の避難訓練を行いました。地震の放送が入ると、みんな素早く机の下にもぐり机の脚を持って地震がおさまるのを待つことができました。その後、運動場へ避難しましたが、火災の避難訓練の時と比べると全員が避難する時間を1分縮めることができました。

子どもたちの感想を見ると、「1分縮めることができてよかった。」「上手にひなんすることができてよかった。」という子が多かったのですが、「少ししゃべってしまった。次からは気をつけたい。」と反省をしていた子もいました。

（学年担任 丹波）